

10月30日付け、南日本新聞によりますと宮崎県の口蹄疫検証委員会が宮崎県に「大規模農場頭数制限」を提言することになりました。

当たり前といえば当たりの話です。

規模が大きくなると「殺処分や埋却地の確保で時間を要するなど感染拡大リスクが大きい」とし今回の提言となりました。

霧島に計画されています大規模養豚場の常時15万頭の飼育など、非常識です。

15万頭を埋却するには鹿児島県の基準で23ヘクタール必要です。

100メートル幅で遥か2.3Km先まで、穴を掘りブルーシートを敷き、石灰をまき、15万頭を殺し、埋めることとなります。業者は山の上に埋めると公言しています。

殺された豚の呪いの汚染水が手籠川、天降川を通して錦江湾に向かいます。

この恐怖を感じない行政、議員の皆様、動きの少ない市街地の皆様、一緒に考えませんか？

MSNのニュースでも確認できます。

### 【口蹄疫】大規模農場の頭数制限を

2010.10.29 20:56

口蹄（こうてい）疫問題で、宮崎県の検証委員会（座長・原田隆典宮崎大教授）は29日、大規模農場で感染が起きた場合、拡大リスクが大きいとして、飼育頭数に上限を設けることを県に提言する方向で中間報告をまとめた。

検証委は、防疫対策や初動対応、国や市町村との連携など6つの観点で意見を整理。初動対応では「感染リスクが少しでもあれば、検体を（国の施設に）送る姿勢が必要ではなかったか」、車両の消毒では「防疫指針を上回る措置を検討する必要があったのではないか」などと指摘した。

大規模農場については「殺処分や埋却地の確保で時間を要するなど、感染拡大リスクが大きい」とし、一農場当たりの飼育頭数に上限を設けることを検討課題に挙げた。感染源や拡大ルートの調査の徹底が必要として行政に強制調査権を持たせることにも言及した。